

報道関係各位

公益財団法人 笹川スポーツ財団

## 4～9歳の子どもと10代の青少年のスポーツライフに関する調査報告書 子どものスポーツライフ・データ 2015/青少年のスポーツライフ・データ 2015 最新号 刊行のご案内

このたび「スポーツ・フォー・エブリワン」を推進する笹川スポーツ財団（理事長：小野清子 以下：SSF）が、『子どものスポーツライフ・データ』（4～9歳のスポーツライフに関する調査）、『青少年のスポーツライフ・データ』（10代のスポーツライフに関する調査）を取りまとめました。

SSFでは、10代の青少年を対象にした本調査を2001年から、4～9歳を対象にした本調査を2009年から実施しております。これにより、全国の幼児から青少年までの連続した年代の「実施頻度」、「実施時間」や「運動強度」から見た「運動・スポーツ実施レベル」をはじめ、スポーツ施設やスポーツボランティア、好きなスポーツ選手などのスポーツライフの現状を継続的に把握することができます。

調査の最新の報告書となる「子どものスポーツライフ・データ 2015」、「青少年のスポーツライフ・データ 2015」は2016年3月14日に刊行されます。

最新刊のメインピックでは、子どもたちの「メディア（スマホなど）の利用状況」や「家族との運動・スポーツ」、「オリンピック・パラリンピックのイメージ」などを取り上げています。

**3月14日(月)より、Amazon ブックストアなどでお買い求めいただけます。**

### ポイント

#### 【4～9歳の調査結果】

- ・運動・スポーツ実施頻度は、およそ半数が高頻度（週7回以上）でからだを動かしている一方で、非実施者も3.7%存在しており、前回（2013年）調査よりも増加している。
- ・過去1年間に行った運動・スポーツ種目は1位「おにごっこ」を始め運動あそびが上位に。スポーツ系は「サッカー」と「バドミントン」がランクイン。

#### 【10代の調査結果】

- ・運動・スポーツ実施頻度は、およそ3人に1人が週7回以上、7～8人に1人が非実施者。
- ・過去1年間に「よく行った」運動・スポーツ種目で、男子では初めて「野球」が3位に後退。
- ・運動・スポーツ実施レベルが低いほどメディア（テレビ、PC、スマホ等）の利用時間が長い。

#### 【担当者コメント】

今回の調査から、わが国の4～9歳を対象とした運動・スポーツの現状をみると、実施頻度において、およそ半数が高頻度（週7回以上）でからだを動かしていることがわかった。一方で、非実施者も3.7%と前回調査から増加しており、引き続き注視が必要である。

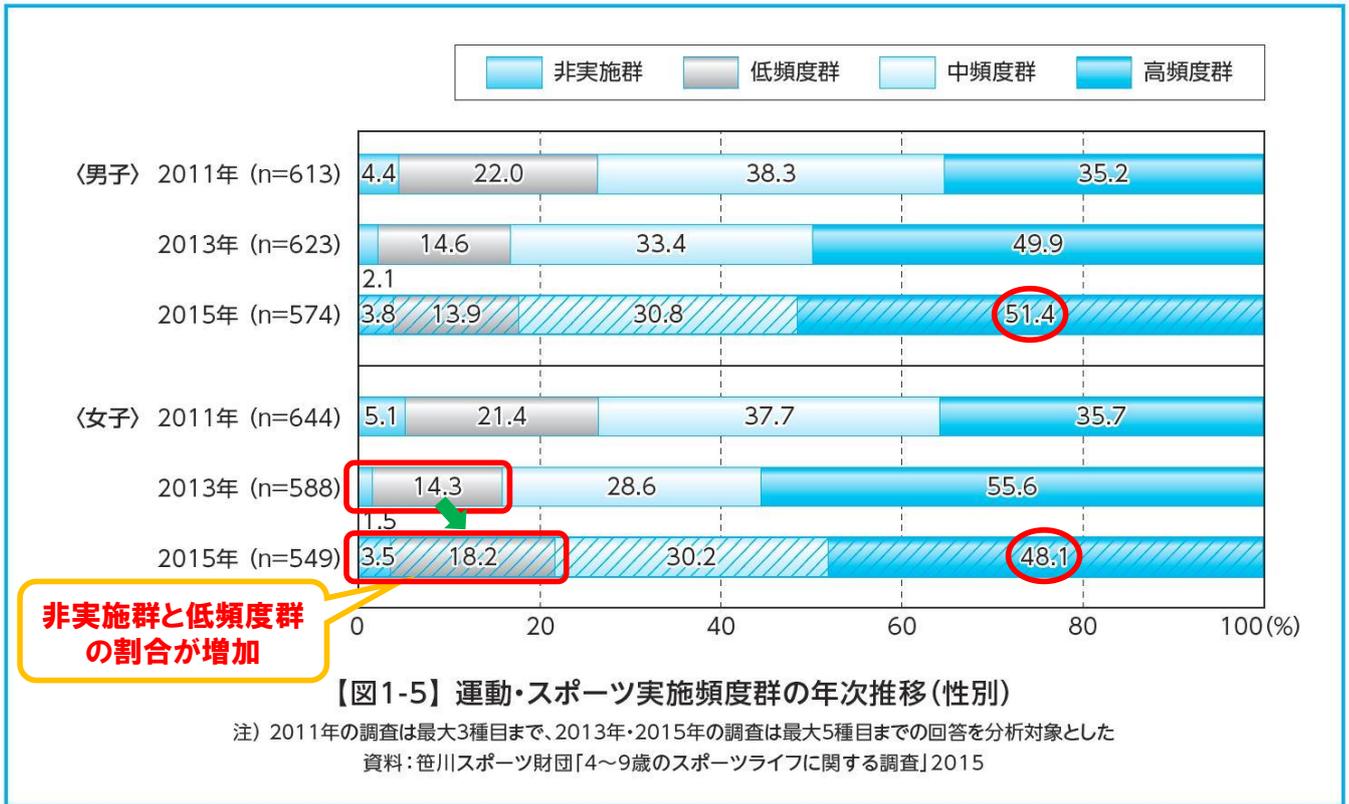
10代の青少年を対象とした運動・スポーツの現状をみると、「よく行った」運動・スポーツ種目の男子で「野球」が調査開始（2001年）以来、初めて3位に後退した。4～9歳から実施率の高い「サッカー」との差が10代になって現れていると考えられる。また、運動・スポーツ実施のレベルが低いほどメディア（テレビ、PC、ゲーム等）の利用時間が長いとの結果になったが、今後はメディアの種類やコンテンツの内容なども加味した調査が必要となるであろう。

【笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所 研究員 藤原直幸】

【結果の詳細：4～9歳のスポーツライフに関する調査】

1. 運動・スポーツ実施率（報告書 P.47 参照）

高頻度群（週7回以上）は男子51.4%、女子48.1%であり、男子が女子を3.3%上回った。低実施群（年1回以上週3回未満）は女子18.2%、男子13.9%であり、男子に比べて女子が4.3ポイント高い。2013年と比較すると、女子では、非実施群（年間0回）と低頻度群を合わせた割合が15.8%から21.7%へと5.9ポイント増加している。



< 次頁に続く >

## 2. 年1回以上行った運動・スポーツ種目 (P.48 参照)

過去1年間に行った運動・スポーツ種目をみると、全体では、1位「おにごっこ」65.7%、2位「自転車あそび」53.2%、3位「ぶらんこ」52.1%と、いわゆる運動あそびが上位を占めた (p48:表1-3)。スポーツ系の種目では、6位「水泳(スイミング)」46.3%、10位「サッカー」35.1%、14位「バドミントン」16.4%となった。

**【表1-3】 過去1年間に1回以上行った運動・スポーツ種目および推計人口  
(n=1,123:複数回答)**

順位	実施種目	実施率(%)	推計人口(万人)
1	おにごっこ	65.7	426.5
2	自転車あそび	53.2	345.3
3	ぶらんこ	52.1	338.2
4	かくれんぼ	48.0	311.6
5	なわとび(長なわとびを含む)	47.2	306.4
6	水泳(スイミング)	46.3	300.5
7	鉄棒	44.8	290.8
8	かけっこ	39.7	257.7
9	ドッジボール	39.6	257.1
10	サッカー	35.1	227.8
11	体操(軽い体操・ラジオ体操など)	22.0	142.8
12	キャッチボール	19.7	127.9
13	海水浴	17.2	111.7
14	キックボード	16.4	106.5
	バドミントン	16.4	106.5
16	サイクリング	15.0	97.4
17	フィールドアスレチック	13.8	89.6
18	木登り	13.7	88.9
19	釣り	12.6	81.8
20	一輪車	12.4	80.5

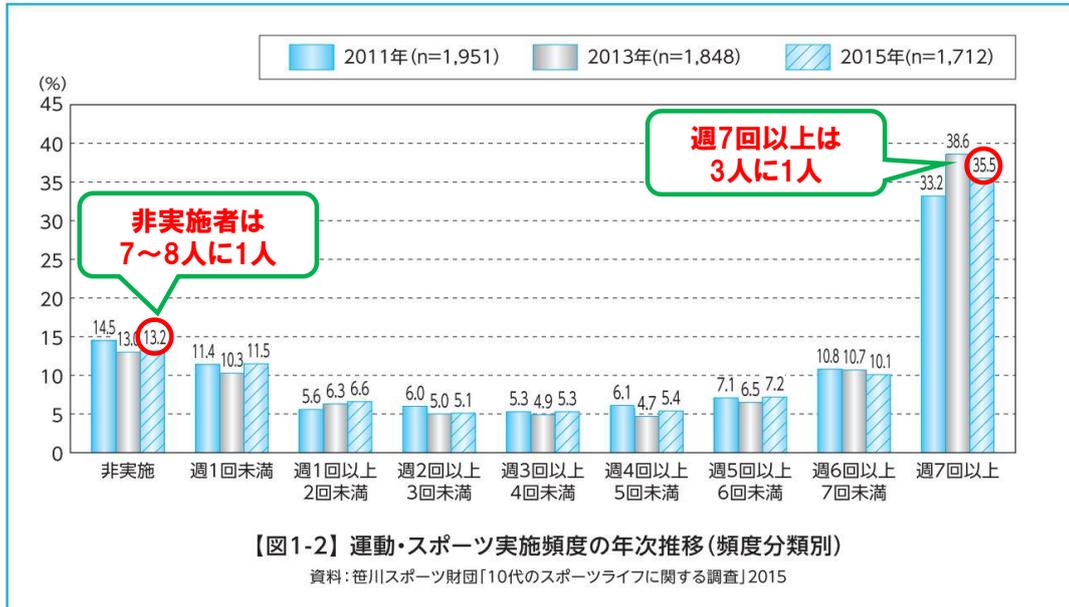
注) 推計人口:4~9歳の人口6,491,304人に実施率を乗じて算出

資料: 笹川スポーツ財団「4~9歳のスポーツライフに関する調査」2015

【結果の詳細：10代のスポーツライフに関する調査】

1. 運動・スポーツ実施率 (P.39 参照)

運動・スポーツ実施率では非実施が13.2%、週7回以上が35.5%であった。非実施者は7~8人に1人、週7回以上は3人に1人程度で推移している。



2. 「よく行った」運動・スポーツ種目 (P.47 参照)

過去1年間に「よく行った」運動・スポーツ種目を性別にみると、男子は1位「サッカー」44.0%、2位「バスケットボール」27.3%、3位「野球」23.0%となり、年1回以上実施と同様、「野球」が初めて3位となった。

【表1-8】 過去1年間に「よく行った」運動・スポーツ種目の年次推移 (性別:複数回答)

男 子								
2011年(n=888)			2013年(n=886)			2015年(n=779)		
順位	実施種目	実施率(%)	順位	実施種目	実施率(%)	順位	実施種目	実施率(%)
1	サッカー	40.9	1	サッカー	45.4	1	サッカー	44.0
2	野球	27.6	2	野球	25.8	2	バスケットボール	27.3
3	バスケットボール	24.3	3	バスケットボール	24.9	3	野球	23.0
4	ジョギング・ランニング	17.7	4	ジョギング・ランニング	20.5	4	ジョギング・ランニング	17.7
5	水泳(スイミング)	15.1	5	おにごっこ	19.1		ドッジボール	17.7
6	筋カトレニング	14.8	6	水泳(スイミング)	18.4	6	おにごっこ	16.3
7	卓球	11.7		ドッジボール	18.4	7	卓球	15.5
8	ボウリング	10.7	8	筋カトレニング	15.8	8	筋カトレニング	15.4
9	ドッジボール	10.5	9	卓球	13.4	9	水泳(スイミング)	14.4
10	キャッチボール	10.0	10	キャッチボール	12.2	10	バドミントン	12.6

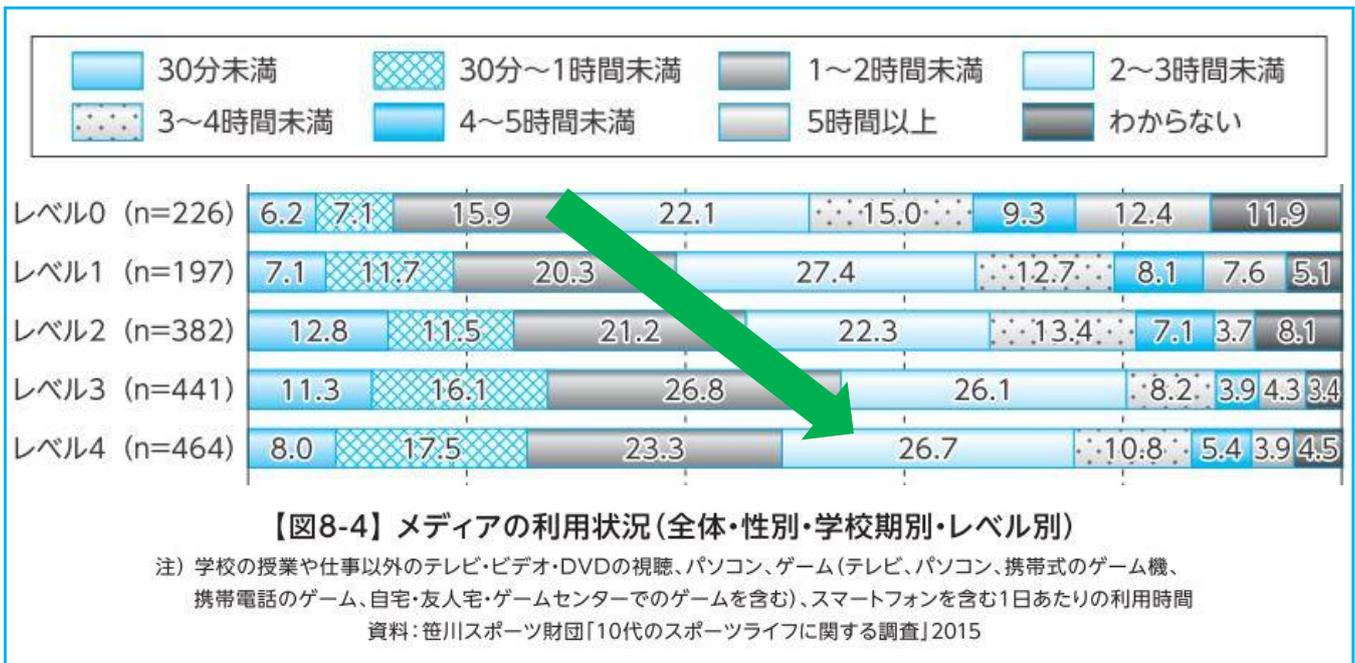
<次頁に女子の表>

女子								
2011年(n=780)			2013年(n=722)			2015年(n=707)		
順位	実施種目	実施率(%)	順位	実施種目	実施率(%)	順位	実施種目	実施率(%)
1	バドミントン	19.4	1	おにごっこ	24.0	1	バドミントン	24.5
2	バスケットボール	17.6	2	バドミントン	23.1	2	おにごっこ	23.5
3	おにごっこ	17.3	3	バレーボール	19.8	3	バレーボール	20.8
4	水泳(スイミング)	17.2	4	なわとび(長なわとびを含む)	18.6	4	バスケットボール	19.1
5	ジョギング・ランニング	16.3	5	ジョギング・ランニング	17.7	5	ジョギング・ランニング	17.4
6	バレーボール	15.5	6	バスケットボール	17.2	6	なわとび(長なわとびを含む)	17.0
7	なわとび(長なわとびを含む)	15.3	7	水泳(スイミング)	15.5	7	ドッジボール	16.5
8	ウォーキング	13.5		ドッジボール	15.5	8	水泳(スイミング)	14.7
9	筋力トレーニング	11.8	9	筋力トレーニング	14.3	9	筋力トレーニング	12.7
10	ドッジボール	10.3	10	ウォーキング	12.3	10	ウォーキング	12.6
				ぶらんこ	12.3			

注) 「よく行った」運動・スポーツ種目: 過去1年間に行った運動・スポーツのうち、実施回数の多い種目  
資料: 笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2015

### 3. メディアの利用状況 (P.96 参照)

平日と休日における学校の授業や仕事以外でのテレビ視聴やパソコン、ゲーム、スマートフォンなどの1日あたりのメディアの利用状況(平日2時間未満)と「運動・スポーツ実施レベル」をみると、「レベル0」が29.2%、「レベル1」が39.1%、「レベル2」が45.5%、「レベル3」が54.2%、「レベル4」が48.7%となり、運動・スポーツ実施のレベルが低いほどメディアの利用時間が長い状況がうかがえる。



**調査概要**

調査目的 本調査はわが国の子どもや青少年（4歳～19歳）の運動・スポーツ活動の実態を総合的に把握し、スポーツ・フォー・エブリワンの推進に役立つ基礎資料とすることを目的としている。

	子ども（4～9歳）	青少年（10～19歳）
調査内容	1 運動・スポーツ実施状況 2 運動・スポーツ施設 3 スポーツクラブ 4 スポーツ観戦 5 習いごと 6 運動・スポーツへの態度 7 好きなスポーツ選手 8 個人属性 （保護者対象） 1 運動・スポーツ実施状況 2 運動・スポーツ、運動あそびに対する意識や態度 3 生活習慣 4 個人属性	1 運動・スポーツ実施状況 2 運動・スポーツ施設 3 スポーツクラブ・運動部 4 スポーツ観戦 5 好きなスポーツ選手 6 スポーツボランティア 7 習いごと 8 運動・スポーツへの態度 9 オリンピック・パラリンピック 10 生活習慣・健康 11 個人属性 （保護者対象） 1 運動・スポーツ実施状況 2 運動・スポーツ、運動あそびに対する意識や態度 3 生活習慣 4 個人属性
調査対象		
母集団	全国の市町村に在住する4～9歳	全国の市町村に在住する10歳代
標本数	1,800人	3,000人
地点数	市部181地点 郡部19地点 計200地点	
抽出方法	層化二段無作為抽出法	
調査時期	2015年6月27日～7月31日	
調査方法	訪問留置法による質問紙調査	
回収結果	有効回収数 1,123 (62.4%)	有効回収数 1,712 (57.1%)

**SSF スポーツライフ調査委員会**

委員長	海老原 修	横浜国立大学 教育人間科学部	教授
委員	大勝 志津穂	愛知東邦大学 経営学部	准教授
	澤井 和彦	桜美林大学 健康福祉学群	准教授
	鈴木 宏哉	順天堂大学 スポーツ健康科学部	准教授
	高峰 修	明治大学 政治経済学部	教授
	堤 裕美	札幌大谷大学短期大学部 保育科	准教授
	野井 真吾	日本体育大学 体育学部	教授
	渡邊 一利	笹川スポーツ財団	専務理事